地区別計画（28年度～32年度）

# 8　潮田西部 地区

## 1. 地区概況

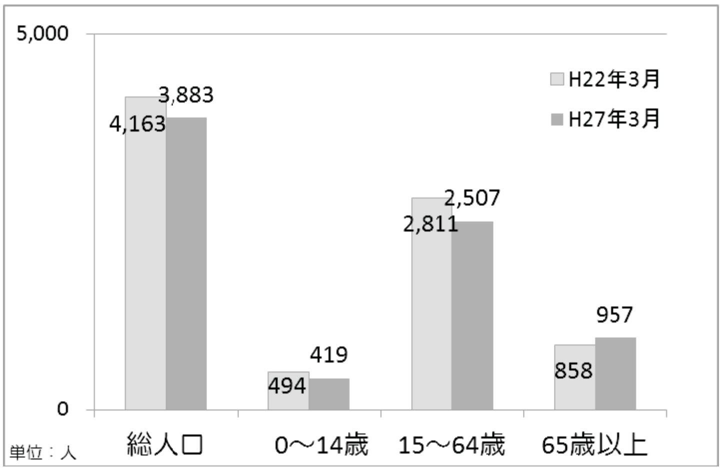
鶴見川と海側の工業地帯に挟まれた潮田地区に位置した平坦な地形です。

潮田交流プラザ（潮田地域ケアプラザ、潮田地区センター、国際学生会館）、汐入小学校が立地しています。地区の中央を、潮風大通りが通っています。

６月の潮田神社例大祭は、潮田地区の一大イベントです。

## 2. 潮田西部地区の人口（年齢区分別）

| | H22年3月（年齢区分別比率） | H27年3月（年齢区分別比率） | 【参考】H27年3月（鶴見区全体の年齢区分別比率） |
|---|---|---|---|
| 総人口 | 4,163人（100.0%） | 3,883人（100.0%） | （100.0%） |
| 0～14歳 | 494人（11.9%） | 419人（10.8%） | （13.3%） |
| 15～64歳 | 2,811人（67.5%） | 2,507人（64.6%） | （67.0%） |
| 65歳以上 | 858人（20.6%） | 957人（24.6%） | （19.7%） |




・５年前と比べると、０～14歳、15～64歳、総人口は減少しています。
・一方で65歳以上の人口は増加しており、高齢化が進んでいます。

※地区別人口については、集計上の誤差があり、実態と一致しない場合があります。　出典「横浜市統計ポータルサイト」

## 3. 第２期計画

### 情報でつながる人の輪・地域の和

◆ ◇ ◆ 具体的な取り組み ◆ ◇ ◆

・みんなで声をかけあおう

・役にたつ情報を知ったら、みんなに伝えよう

・地域ケアプラザを拠点に、身近な居場所の継続と活用をしよう

・一緒に活動をする人を増やそう（担い手確保）

## 4. 第２期計画の主な取組内容（22 年度～27 年度）

■ テーマ毎（具体的な取組）の活動振り返り

◆ みんなで声をかけあおう

　潮田西部地区防災訓練を、フレンドフェステバル（こども育成会・青少年指導員行事）、ひとり暮らし高齢者の昼食会、及び交通安全教室と合同で開催するなどして、こどもから高齢者までの交流機会を提供し、声を掛けあうきっかけ作りに取り組みました。

　また、あいねっとの標語（情報でつながる人の輪・地域の和）が入ったしおりを作成し、配布を通じて、地域の方に声を掛けあうなどしました。

◆ 役にたつ情報を知ったら、みんなに伝えよう

　見守りポスターを作成する際、役立つ情報として潮田地域ケアプラザの連絡先を記載し、自治会掲示板や商店街に掲示することで、地域の方に周知しました。

　また、地域の高い建物を調べて、自治会ごとに避難マップを作成し、防災訓練の際に発表するなどしたことに加え、街の情報一元化を図るための「街の安全・安心マップ」も作成し、自治会館に掲示して、地域の方への周知に努めました。

◆ 地域ケアプラザを拠点に、身近な居場所の継続と活用をしよう

　就園前の乳幼児が自由に遊んだり、親が交流できるよう、「親子の居場所おのしおキッズ」を開設したり、「介護や認知に関する予防講座」及び「歯っぴいライフ講座」を実施するなどして、潮田地域ケアプラザを身近な居場所として活用していただく取り組みを行いました。

◆ 一緒に活動する人を増やそう（担い手確保）

　社会を明るくする運動ミニ集会や地区フォーラム、ひとり暮らし高齢者等昼食会の他、運動会、お祭り、及び盆踊り大会など様々な活動を、地域ケアプラザや地区センター、国際学生会館、学校などと連携して実施することで、年齢・性別・国籍を超えた活動の輪を広げる取り組みを行いました。

■ 活動を通してみえてきた課題

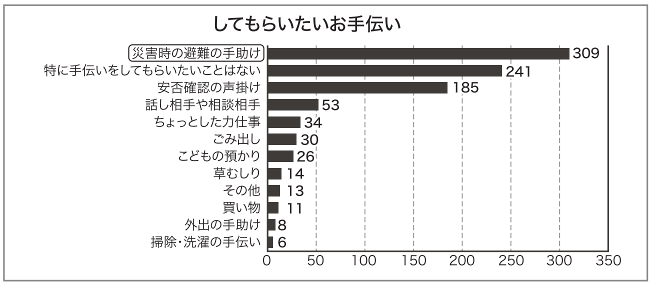
　活動の原点となる「あいねっと」が、地域で十分に認知されていないこともあり、啓発・周知活動が、今後の課題の一つとして挙げられます。

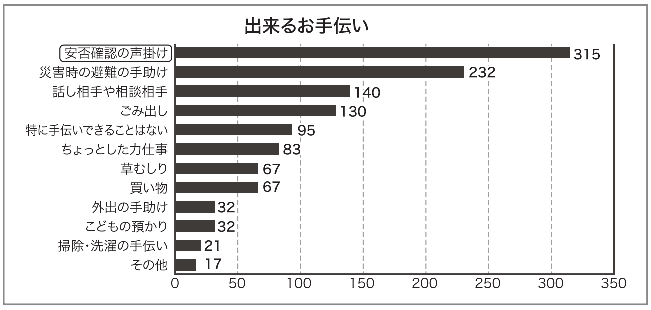
　また、担い手を確保するために、様々な活動を実施し、活動を通じて仲間を増やす取り組みを行っているものの、中核となる人材の育成には至っていないことも、第２期計画の中での課題の一つとして考えています。

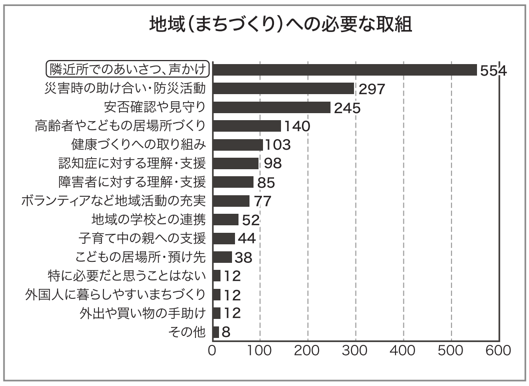
# 5. 第３期計画策定に向けて

○地区アンケート

第 ３ 期鶴見・あいねっと地区別計画策定あたり、地域住民の意見を反映させるため、平成 27 年 １ 月下旬から ３ 月下旬にかけて、アンケートを実施しました。（回収件数６８０件　回収率５４．６％）結果は、次のとおりでした。




**アンケート結果からは，自分から助けを求めない，助けを求めることができない人たちへの取り組み，活動の周知不足，多数の災害時の支援依頼等，今後の地域活動に向け改善すべき点が見えました。**

○地区懇談会の開催

開催日時：平成 27 年９月 12 日（土）9:30～12:00

場所：潮田地区センター 中会議室

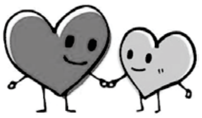
参加者数：39 人

テーマ・内容

第３期計画策定に向けた地域の声

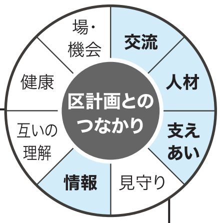
- 「あいねっと」という言葉を知らない方も多いので、効果的な広報について検討が必要ではないか。
- 地域活動で中核となる担い手が不足しており、担い手を育成するための取組が必要と思う。
- 安全、安心に関する取組の強化が必要と考える。
- 情報の発信は、通常の手法だけでなく、ＬＩＮＥやメールといった別の手法も用いることも、絆づくりに役に立つと思う
- 外国人とは、子ども同士のコミュニケーションから親同士もつながるよう、積極的な声掛けを行っていければよいのではないか。
- 活動の際、参加者全員が役割をもつような仕掛けをつくることも考えたほうがよいのではないか。
- 個人の健康意識づくりを高めるための取組が必要と思う。

## 6. 第３期計画策定（28 年度～32 年度）



# “まちづくり　絆づくりと 健康づくり”

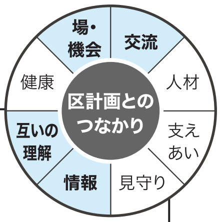
### 目標１　地域みんなでまちづくり




■現状の課題
- あいねっとが地域で十分に認知されていない（アンケート結果より）
- 中核となる人材の育成
- 安全、安心に関する取組
- 地域活動の活性化

■5 年間の具体的な取組
- ◎ 効果的な広報活動
- ◎ 人材育成に関する取組
- ◎ 防犯・防災に関する啓発（災害時の避難手助け等）
- ◎ 地域活動活性化に向けた取組（若い世代の参加促進

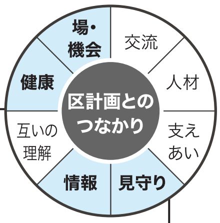
### 目標２　情報でつなぐ地域の人の絆づくり




■現状の課題
- 地域活動を知らない方が２割（アンケート結果より）
- 若年層の近所付き合い度が低い（アンケート結果より）
- 外国人の住民も多いが、言葉が通じず、関係が希薄になりがち

■5 年間の具体的な取組
- ◎ 地域活動の積極的な情報発信
- ◎ 多世代、多文化交流の実施

### 目標３　地域の特性を活かした健康づくり




■現状の良いところ・課題
- 地区内に地域ケアプラザ、地区センター、小学校、及び公園等の地域資源あり
- 高齢化率が高い、健康に関する不安
- 情報発信（ＰＲ）が不足気味で、健康に関する理解が進んでいない

■5 年間の具体的な取組
- ◎ 高齢者などを支える体制づくり
- ◎ 特定健康診査・がん検診の受診
- ◎ 委嘱委員の活動紹介、情報発信
- ◎ 地域資源を生かした活動の実施